

『トイレ世界周遊紀行』

河野 まりな

2121 文字

あらすじ

「仕事、辞めます！」人一倍行動力がある旅好き女子は仕事を辞めて世界周遊の旅を始めた。そして気づく。トイレに行かない日はないのだと。様々な国のトイレ事情を垣間見たからこそ感じる日本のキレイ。

<本編>

トイレに行かない日はない。そこは私にとって安らぎの空間である。しかしそこが汚れているならば、入ることさえ躊躇する空間でもある。お気に入りの靴で入るには残念すぎるし、口呼吸にも限界がある。それでも、行かないわけにはいかないのだ。

仕事、辞めよう。

貯金はある。ズルズルと長年付き合っていた彼氏の精算も果たした。これは、フリーというやつだ！！

都内のとあるデザイン事務所のトイレで決めたことだった。

彼女は決して仕事ができないわけでも、男にモテないわけでもない。むしろ仕事はきちんとできるしセンスもある。男だって寄ってくる。

ちょっとトイレで考え事をするのが好きなので滞在時間が長いが、これといった欠点はない。しかし行動力と決断力はそれらを凌ぐほどであった。

「仕事、辞めます！」

アメリカ、ボルチモア・ワシントン国際空港のトイレ。予想よりは綺麗だけれど、ドアが足元までないから待ち人が何人だとか、あの人は化粧直しをしているとか、あのヒールかわいとか、トイレ中には必要ない情報が入ってきて全く安らげない。特に待ち人については我慢する辛さを人として知っているため同情も合間って急かされる。早く彼女を楽にしてあげなければ！と。

イタリア、ローマその他各地。そもそも公衆的なトイレが非常に少ない。あってもお金がかかる。トイレ云々より、我慢し続けた記憶ばかりだ。トイレのことを考えると観光もままならない。ちなみに公衆トイレも見つからずやっと見つけたモールに駆け込み、インフォメーションのお兄さんに切羽詰まりながらトイレはどこか聞いたところ、2階と教えてもらったのだが、2階にトイレはなかった。頭をフル回転して思い出した知識によると、ヨーロッパでは1階のことをグランドフロアと呼ぶ。したがって2階が1階なので、お兄さんが教えてくれた2階というのはあのモールでいうと3階にあたる。危うく年甲斐もなくミラノの高級デパートで漏らすところだった。

トルコ、イスタンブール空港。やはりドアが足元までない。なぜだ。あと少し素材を付け足せば完璧なのに。そして便器の隣にある小さめのシャワーヘッドは何だろうか。それはさておき、トルコのトイレは全体的には綺麗である。さすがはハンマーム文化。風呂もトイレも綺麗な場所が多い。

ベトナム、ハロン湾の客船トイレ。紙がない。

ヨルダン、クイーンアリア空港のトイレ。非常に綺麗である。が、掃除のおばちゃんたちは暇なのか、5分おきくらいに掃除にくるので長居はなんとなくし難い。しかもお前の出待ちだと言わんばかりにドアの前でぺちゃくちゃアラビア語でおしゃべりする。街のトイレでは、鍵を閉めたら開かないことが多々あった。やめてください。

エジプト、カイロのとあるホテルのトイレ。なるほど。便器の横にあるホースはボディ用のシャワーらしい。ユニットバスは知っているけれど、バスタブもないのでトイレとバスの境目はない。何もかも水浸しになる準備をしてから臨もう。

そして、便器の横にもう一つ小さなシャワーヘッドがある。確かトルコやヨルダンなど中東のトイレで見かけたこのシャワーヘッド。気になったのでホテルの人に、これは何に使うのか問うたところ、手動ウオシュレットだった。ウオシュレット文化が中東にもあったとは！！早速使ってみたところ、思ったよりも水圧が強いので下着どころか服まで水浸しになる。アラブ人はこれをどう使いこなしているのか、気になるポイントの一つである。

日本人みんなが大好き、ハワイ、ホノルル。

.....

それほど綺麗でもないし、ラッシュ時は紙がない個室もあるし、ゴキブリもいる。期待していた分がっかりである。なぜ日本人はそんなにハワイが好きなのか。ハワイのトイレよりもっと綺麗なトイレはたくさんある。

イギリスのとあるご家庭のトイレ。トイレに毛皮がふわふわと敷いてございます。手洗い場の石鹸は3種類くらいあり何を使ったらいいのかわかりません。そもそも広すぎて私の排泄信号と空間の異様さが合間って一苦労しました。

それから私はいろいろな国に行った。どの国に行っても、トイレに行かなかった国はない。当たり前だ。人はトイレに行かない日はない。
だからこそ、安らぎたい。こだわりたい。綺麗であってほしい。

成田空港の到着ロビー。機内で縮こまった体をほぐしながら、久しぶりに降り立った故郷に感動する。地上はあいにくの曇り空だが、空の上で存分に青空を味わったのでいいだろう。ガラス張りの窓の向こうでは、これから出発するのか、屈強な男たちが大量の荷物を機内へ詰め込んでいる。しかし、手つきが丁寧である。

このまま人の波に乗って入国手続きへ向かおうとしたところ。

トイレに行きたい！

サインに導かれ、一番近いトイレへ入った。

臭くない！

個室へ入れば便器を拭くための除菌ジェルがある。トイレットペーパーは予備も補充されている。便器は、暖かい。

手洗い場には液体石鹸が補充されていて、ジェットタオルがある。

なんて、なんてキレイなんだ、日本のトイレ！！

私はきっと旅をやめることはできない。しかし、帰る場所はいつだって日本なのだ。そして日本のトイレの安らぎとキレイを感じて、帰ってきたのだと思い知る。